

●白馬會の回顧(二)

黒田清輝氏談

▲交際に益した旅行

其外臨時に少くて四五人集つて一所に旅行する事があるんです、是は決つた事でなし眞の思ひ附で行かないかと云ふ事を出掛けて行くのです此又旅行が餘程友達の交際に益してゐる事が多いだらうと思ふのは言はず師匠株の人も弟子株の人も居ますけれども其隔もなく汚い宿屋などに夜具を引張りあつたり共寝したりしてやるのです、其旅行ハ度々やりましたけれど一番重なる事を舉げて見ると上總の大原といふ所へエート二度計り行きました、其から私ハ大原の方に加つたけれども二組に分れ一組の方ハ矢口の渡しの田舎家を借りて其處に暫く陣取つて居た事もあるんです、それから大磯にも行きました、大磯でハ松林館といふ所に、箱根にも行きました、前後箱根にハ三度計り五六年の間に……、それから江の浦に一回と静浦に一回、筑波山にも一回、それから輕井澤の方から霧積の方へ廻つた事がある、其外二三人宛の群りでハ方々へ行つた時もある、房州の白濱邊に行つた事もあります、それから彼の百草園から府中に一晚泊つて鞠子の方から歩いて歸つた事があつた、それから潮來出島へ行つた事もある、如きいふやうな旅行ハ中にハ會員計りでなく氣の合つた親友の仲間ハ三人位ハ餘り關係ない人も交つてるのですけれども暢氣な連中で貧乏たらしいやうな如いかと思ふと酒など飲んだりするやうな事もやるのです、其時に未だ何から東京から杉田の梅を見て金澤に泊つて歸りに鎌倉の方を廻つて歸つた事があります、重なる事ハ

斯んな位で外のチヨイくしたのハ思ひ出せん位です

▲不思議な日本の油畫

私共歸りたてに日本でやつてる油畫あぶらゑといふのハ一二の外國などで學んで來た人の巧い畫もありましたけれども其外の畫は大抵何です非常に何うも古い時代の油畫を眞似てやつて居るやうに感じたんです、それで實に不思議な感が起つたのは日本の空氣の總て鮮やかな明かに物が見えるやうな所であつて其出來たものハ是の反對の如何にも歐羅巴の北の方の暗い光線の所で書いたやうな感じがあります、歐羅巴の北の方の空氣の暗いといふのハ幾らか奥深い感じがあります、霧のかゝつた空氣に富んで居るですね、それで何うも先づ畫の巧拙は別として歐羅巴の如くいふ所で出來た畫を見て而して其彼地で出來たのハ佳いものハ自然の土地柄に依つて中々能く自然を寫してあるですけれども是は自然を知らずして上部丈を拙く眞似たのでないかといふ氣持がしたのです、

『都新聞』明治三八年一〇月三日